

Ⅱ 提言

本調査は、子どもとその保護者への質問紙調査をもとにしたものですが、子どもの生活を向上させるためには、保護者からだけでなく、学校や地域等の子ども周りにいる大人からの働きかけも大切であることに、調査結果を分析・考察していく中で気づきました。

そこで本章の提言は、家庭、学校、地域等の子どもに関わる大人に向けたメッセージとしました。

注1 グラフについて

提言を導いた根拠となる代表的なデータを選び、グラフで示した。対応する相関関係を示す文章は太字にしてある。また、グラフ左上の数字は、提言を導いた根拠を説明する文章と対応している。同様に、相関の検定結果の番号も対応している。

注2 t-検定結果について

t-検定により、H15とH20の同一調査項目の回答群の平均点と偏差に着目して、違いが偶然ではなく意味がある(有意)ものかどうか検定を行った。右の表の例では、小2は「×」なので有意ではなく、2つの回答群には、有意な違いがあるとはいえないことを示している。小5、中2、高2は、「○」・「減」なので、1つ目の回答群より、2つ目の回答群が有意に減少している、ということを示している。

t-検定結果

小2	×	/
小5	○	減
中2	○	減
高2	○	減

有意水準
P<.05

○:有意

×:非有意

注3 相関関係の検定結果について

相関関係に、有意な関係があるかどうかを示した。右の表では、例えばグラフ②で取り上げた2項目は、小2、小5「○」なので有意な相関があり、中2は「-」なのでマイナスに有意な相関があり、高2は「×」なので有意な相関がないことを示している。③の小2の「/」は、その関係に関する質問をしていないことを示している。

相関の検定結果

	小2	小5	中2	高2
①	○	○	○	○
②	○	○	-	×
③	/	○	○	○
④	/	○	○	○

有意水準:P<.05

/質問なし

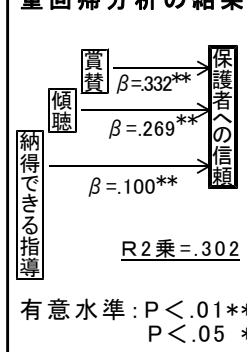
○:有意、×:非有意

-:マイナスに有意

注4 重回帰分析の結果について

提言で示した項目間の因果関係が有意かどうか、またどの程度のものであるかを示した。右の図では、「賞賛」、「傾聴」、「納得できる指導」の三者が、「保護者への信頼」の原因として、(P)1%未満の有意水準で有意であり、その説明率(R2乗、決定係数)が約3割であることを示している。また、β値の大きさから、三者の中で「賞賛」が最も大きな原因になっていることを示している。特に、提言4と5は大切な因果関係を扱い、その中でも中核となることが述べられている4-(1)、5-(2)のみ重回帰分析の結果を示した。他については、同様の確認を行ったが紙面の都合上掲載はしていない。

重回帰分析の結果



注5 グラフ中の質問文は、実際の質問文を平易な表現に改めてある。実際の質問文については、「IV資料」の「2 調査票」を参照してほしい。

注6 グラフ中の質問項目の前についている(子)は子どもへの質問を、(保)は保護者への質問をそれぞれ示している。

注7 グラフ中の『はい』、『いいえ』は、それぞれ回答の選択肢の肯定的回答「はい」「どちらかといえばはい」あるいは否定的回答「どちらかというといいえ」「いいえ」を合わせて集計したことを示している。

注8 グラフ中のnは人数を示している。

注9 グラフ中の「ピーク」という表現は、当該学年で最も人数の多い時刻や時間の意味である。

栃木の子どもの生活を向上させるための 大人に向けた7つの提言

- 提言 1** 子どもが「納得」できる指導をしましょう。
- 提言 2** 早寝、早起き、あいさつが、
自分からできる子どもに育てましょう。
- 提言 3** テレビ・ゲーム・携帯電話、
ルールを決めて守れる子どもに育てましょう。
- 提言 4** 指導、賞賛、傾聴で、子どもの自尊感情を高めましょう。
- 提言 5** 子どもからの信頼を得て、子どもの不安を軽減しましょう。
- 提言 6** 子どもの学習について食卓で話題にしましょう。
- 提言 7** 将来を展望できる「大人」に育てましょう。

提言 1 子どもが「納得」できる指導をしましょう。

子どもの生活の仕方や習慣について、大人から注意や意見をされる回数が減少していることが、5年前の同調査との比較から明らかになりました(1-(1))。

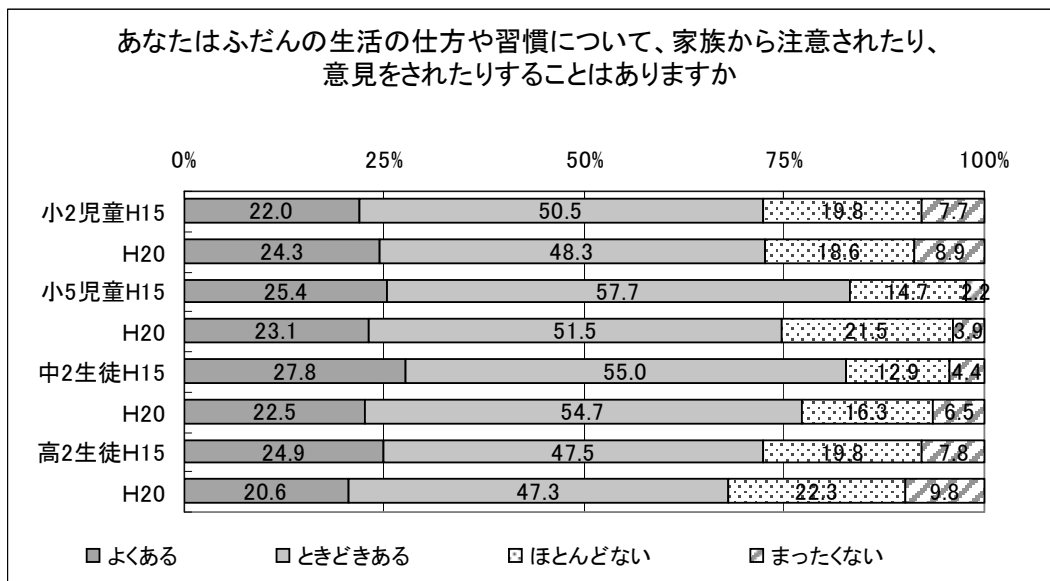
子どもは指導されることで、そのこと以外でも向上しています(1-(2))。たとえば、保護者から早く寝るように言われている子どもほど、早く寝るだけでなく、自信を深め、決まりを守る意識、時間を自己管理する力が高まる傾向があります。

大人が子どもを指導する際に大切なのは、子どもが納得できるような指導をすることです(1-(3))。保護者から注意されたときに納得する子どもは、大人がいなくても決まりを守る傾向があり、逆に、注意されたときに納得できない子どもは、反抗する傾向があります。

子どもが納得できる指導をするためには、ふだんから、大人が子どもから信頼されるように接することが大切です(1-(4))。「保護者は私のことを考えていてくれる」と回答した子ども、「意見が違ってても保護者が耳を傾ける」と回答した子どもほど、「保護者から注意されたとき納得することが多い」と回答する傾向があります。

責任ある大人として、ふだんの子どもとの関係を大切にし、自信を持って子どもを指導し、子どもの成長を促しましょう。

1-(1) 大人が子どもを指導する場面が減少しています。



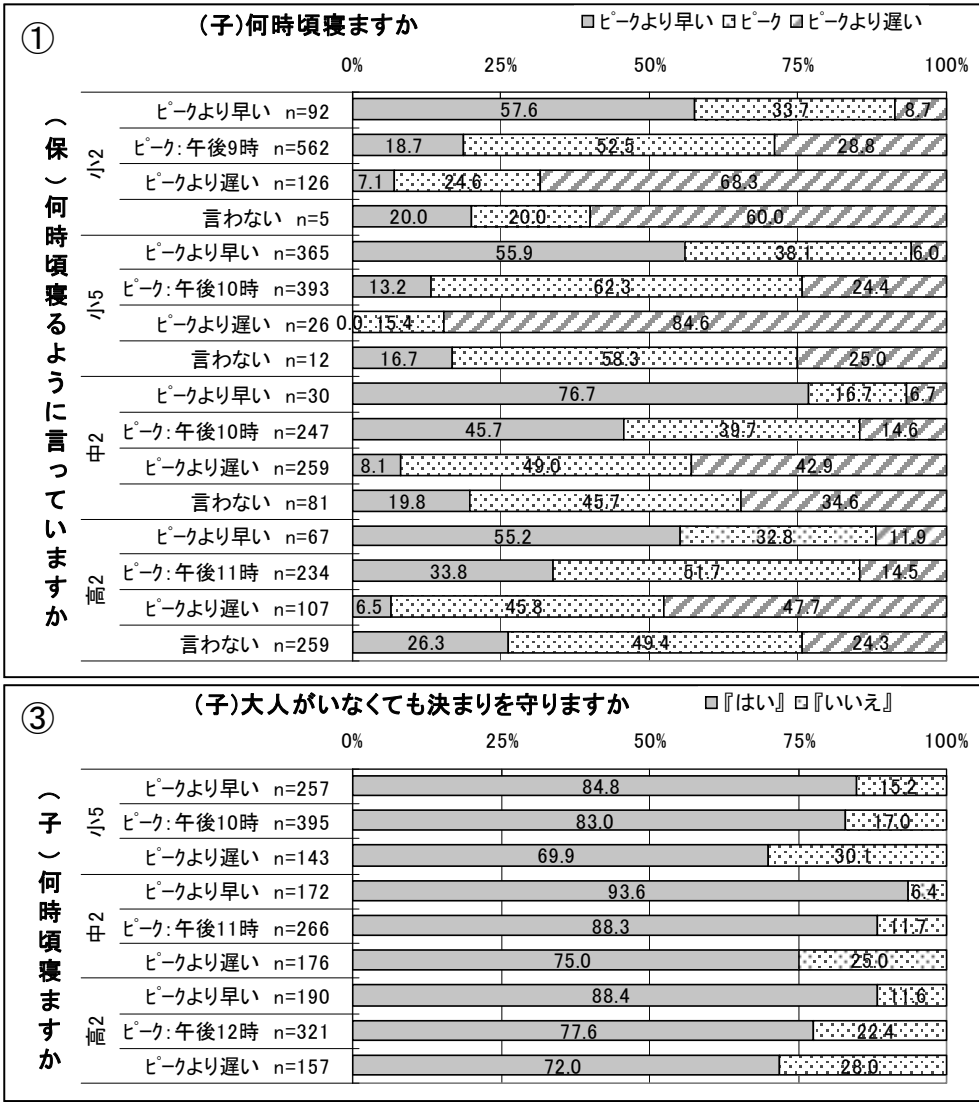
t-検定結果

小2	×	/
小5	○	減
中2	○	減
高2	○	減

有意水準 P<.05
 /: 質問無し
 ○: 有意
 ×: 非有意

1-(2) 大人が指導することで、
 子どもは指導されたことについて向上するだけでなく、
 自信を深め、決まりを守る意識、時間を自己管理する力が高まります。

早寝



相関の検定結果

	小2	小5	中2	高2
①	○	○	○	○
②	○	○	○	×
③	/	○	○	○
④	/	○	○	○

有意水準:P<.05
 /質問なし
 ○:有意
 ×:非有意

① 「早く寝るように言っている」と回答した保護者の子どもほど、「早く寝る」と回答する傾向があります。

② 「早く寝る」と回答した子どもほど、「自分には良いところがある」と回答する傾向があります。

③ 「早く寝る」と回答した子どもほど、「大人がいなくても決まりを守る」と回答する傾向があります。

④ 「早く寝ると」回答した子どもほど、「時間を上手に使う心がけをしている」と回答する傾向があります。

起床

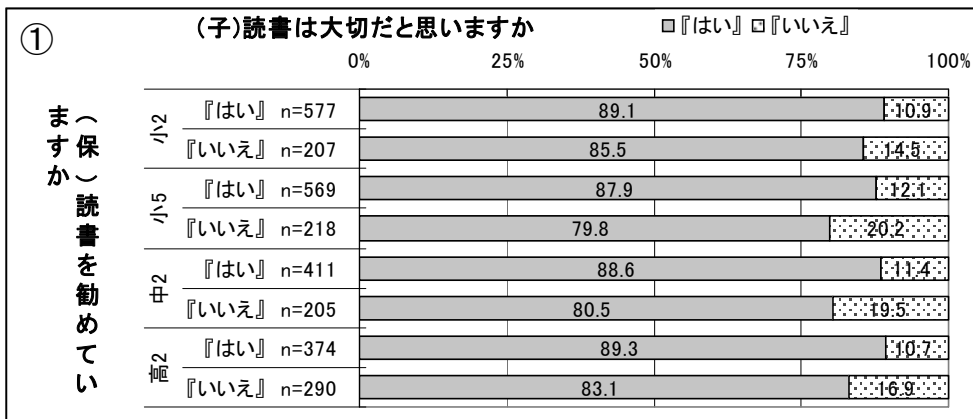
- ① 「自分で起きるように言っている」と回答した保護者の子どもほど、「すっきり目覚める」と回答する傾向があります。
- ② 「すっきり目覚める」と回答した子どもほど、「自分にはとところがある」と回答する傾向があります。
- ③ 「すっきり目覚める」と回答した子どもほど、「大人がいなくても決まりを守る」と回答する傾向があります。
- ④ 「すっきり目覚める」と回答した子どもほど、「時間を上手に使う心がけをしている」と回答する傾向があります。

相関の検定結果

	小2	小5	中2	高2
①	○	○	○	○
②	○	○	○	○
③	/	○	○	○
④	/	○	○	○

有意水準:P<.05
 /質問なし
 ○:有意、×:非有意

読書



関連の検定結果

	小2	小5	中2	高2
①	○	○	○	×
②	○	○	○	×
③	/	○	○	○
④	/	○	○	○

有意水準: P<.05

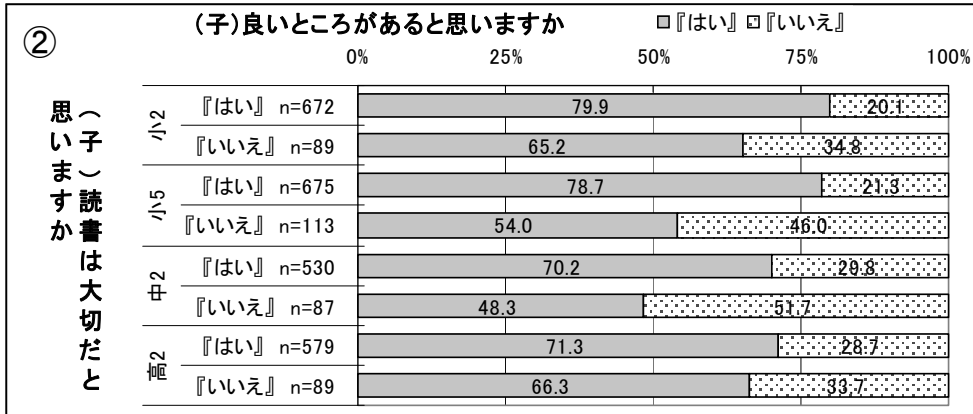
/ 質問なし

○: 有意

×: 非有意

① 「読書を勧めている」と回答した保護者の子どもほど、「読書は大切だ」と回答する傾向があります。

② 「読書は大切だ」と回答した子どもほど、「良いところがある」と回答する傾向があります。



③ 「読書は大切だ」と回答した子どもほど、「大人がいなくても決まりを守る」と回答する傾向があります。

④ 「読書は大切だ」と回答した子どもほど、「時間を上手に使う心がけをする」と回答する傾向があります。

学習

① 「長く勉強するように言っている」と回答した保護者の子どもほど、「勉強時間が長い」と回答する傾向があります。

② 「勉強時間が長い」と回答した子どもほど、「保護者がいなくても決まりを守る」と回答する傾向があります。

③ 「勉強時間が長い」と回答した子どもほど、「自分はやればできる」と回答する傾向があります。

④ 「勉強時間が長い」と回答した子どもほど、「時間を上手に使う心がけをしている」と回答する傾向があります。

関連の検定結果

	小2	小5	中2	高2
①	○	○	○	○
②	○	○	○	○
③	/	○	○	○
④	/	○	○	○

有意水準: P<.05

/ 質問なし

○: 有意

×: 非有意

自分の部屋の掃除

① 「自分で掃除をするように言っている」と回答した保護者の子どもほど、「分担している仕事が多い」と回答する傾向があります。

② 「分担している仕事が多い」と回答した子どもほど、「授業がわかる」と回答する傾向があります。

③ 「分担している仕事が多い」と回答した子どもほど、「家の決まりを守る」と回答する傾向があります。

④ 「分担している仕事が多い」と回答した子どもほど、「時間を上手に使う心がけをしている」と回答する傾向があります。

関連の検定結果

	小2	小5	中2	高2
①	○	○	○	○
②	○	○	○	○
③	/	○	○	○
④	/	○	○	○

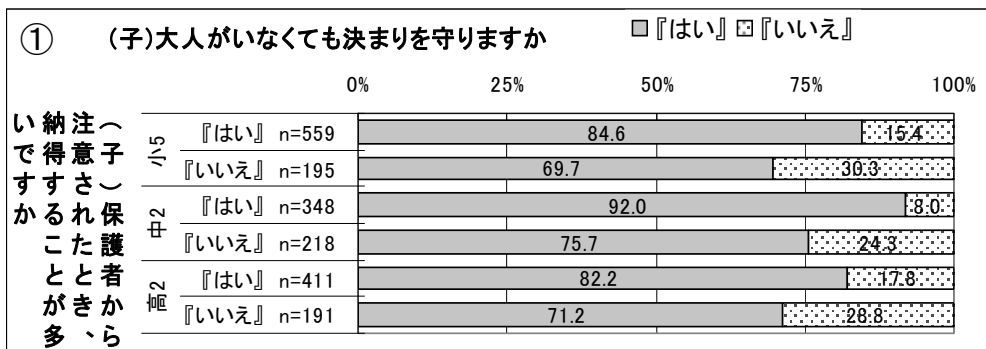
有意水準: P<.05

/ 質問なし

○: 有意

×: 非有意

1 - (3) 子どもが納得できるような指導をすることが大切です。



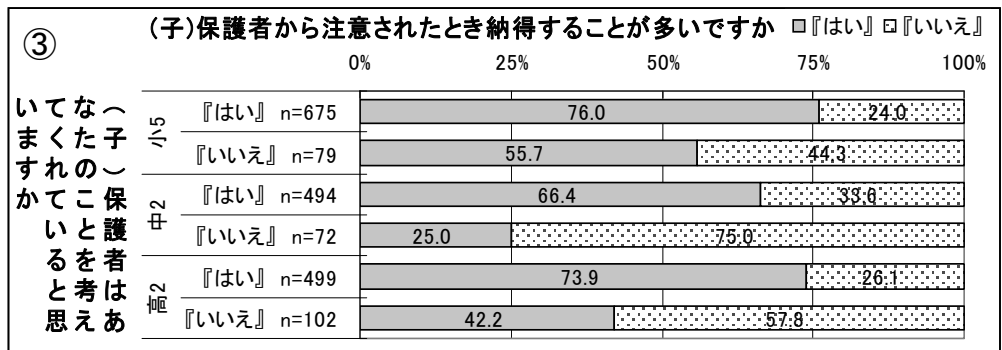
① ② ③ ④ ⑤ ⑥

	小2	小5	中2	高2
①	/	○	○	○
②	/	○	○	○
③	/	○	○	○
④	/	○	○	○
⑤	/	○	○	○
⑥	/	○	○	○

有意水準: P<.05
 /: 質問なし
 ○: 有意
 ×: 非有意

- ① 「保護者から注意されたときに納得する」と回答した子どもほど、「大人がいなくても決まりを守る」と回答する傾向があります。
- ② 「保護者から注意されたときに納得する」と回答した子どもほど、「家の決まりを守る」と回答する傾向があります。
- ③ 「保護者から注意されたときに納得する」と回答した子どもほど、「朝家族にあいさつをする」と回答する傾向があります。
- ④ 「保護者から注意されたときに納得する」と回答した子どもほど、「学習時間が長い」と回答する傾向があります。
- ⑤ 「保護者から注意されたときに納得する」と回答した子どもほど、「乱暴な言葉を使わない」と回答する傾向があります。
- ⑥ 「保護者から注意されたときに納得できない」と回答した子どもほど、「家族から注意されたときに反抗する」と回答する傾向があります。

1 - (4) 子どもが納得できる指導をするためには、
 ふだんから、大人が子どもから信頼されるように接することが大切です。



① ② ③

	小2	小5	中2	高2
①	/	○	○	○
②	/	○	○	○
③	/	○	○	○

有意水準: P<.05
 /: 質問なし
 ○: 有意
 ×: 非有意

- ① 「意見が違っても保護者が耳を傾ける」と回答した子どもほど、「保護者から注意されたとき納得する」と回答する傾向があります。
- ② 「保護者に褒められる」と回答した子どもほど、「保護者から注意されたときに納得する」と回答する傾向があります。
- ③ 「保護者は私のことを考えてくれている」と回答した子どもほど、「保護者から注意されたときに納得する」と回答する傾向があります。

提言 2 早寝、早起き、あいさつが、 自分からできる子どもに育てましょう。

近年、「早寝、早起き、朝ごはん」の大切さが強調されています。本調査から、朝食を「いつも食べる」「食べることが多い」と回答した子どもの割合は、小・中学生が9割、高校生が8割で、5年前と比較して、小5、中2で増加していることが分かりました。

子どもの生活をさらに向上させるために、「早く寝る」「自分から起きる」「朝、家族にあいさつする」ことを提案します。

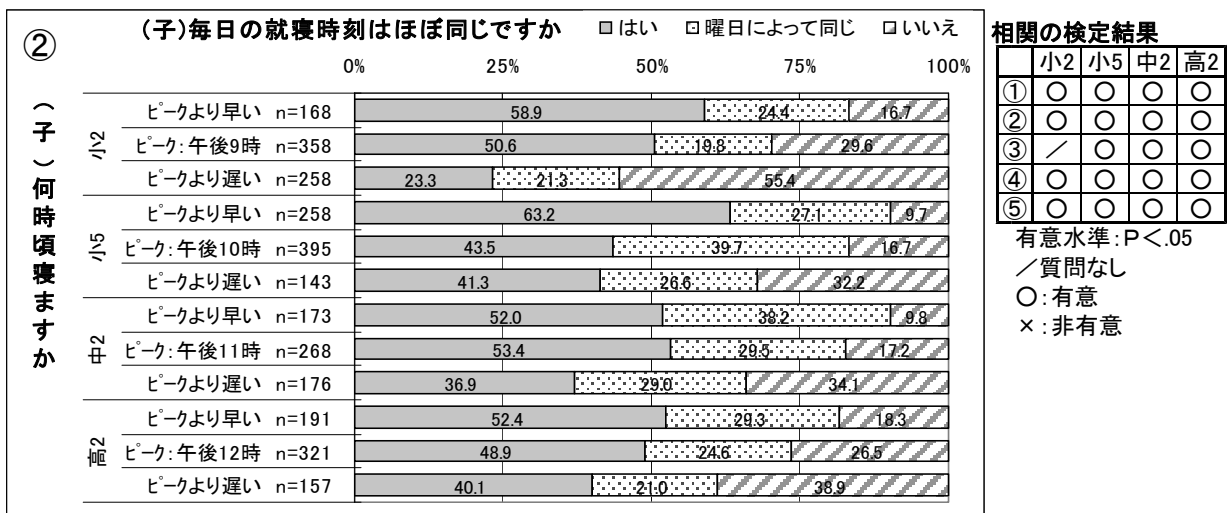
「早く寝る」子どもは、寝る時刻が一定で、睡眠時間が長く、毎日朝食を摂る等の規則正しい生活をする傾向があります(2-(1))。

「自分から起床する」子どもは、自分の部屋の掃除をし、時間を上手に使う心がけをする等の自律的な生活をする傾向があります(2-(2))。

「朝、家族にあいさつする」子どもは、「やればできる」「自分には良いところがある」と思う等の傾向があり、その保護者は、子どもに返事をさせたり、子どもがどこで何をしているか把握できている等の傾向があります(2-(3))。朝、あいさつができることは、大人がしっかりとしつけや指導をしていて、それを子どもが受け入れ、子どもが自分を価値ある存在であると捉える気持ちが高いことを示していると考えられます。

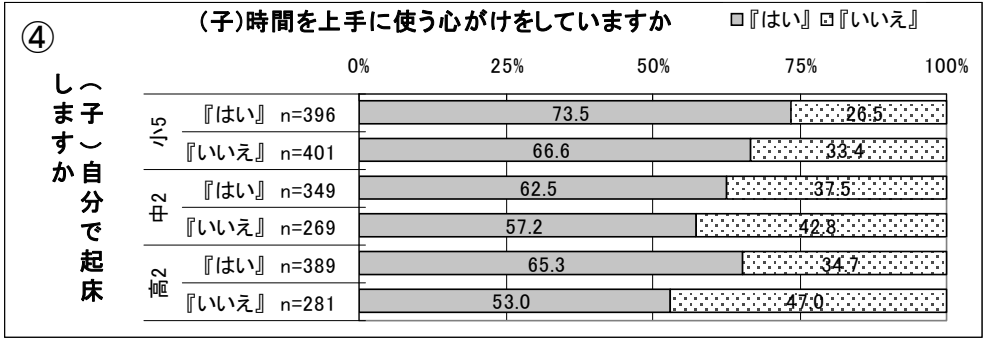
早寝、早起き、あいさつが、自分からできる子どもは、より前向きな姿勢を身につけて、向上していくことが期待できます。

2-(1) 早く寝る子どもほど、規則正しい生活をしています。



- 「早く寝る」と回答した子どもの保護者ほど、「夕食時刻が一定している」と回答する傾向があります。
- 「早く寝る」と回答した子どもほど、「就寝時刻が一定している」と回答する傾向があります。
- 「早く寝る」と回答した子どもほど、「睡眠時間が長い」と回答する傾向があります。
- 「早く寝る」と回答した子どもほど、「すっきり目覚める」と回答する傾向があります。
- 「早く寝る」と回答した子どもほど、「毎朝朝食を食べる」と回答する傾向があります。

2-(2) 自分から起床する子どもほど、自律的な生活をしています。



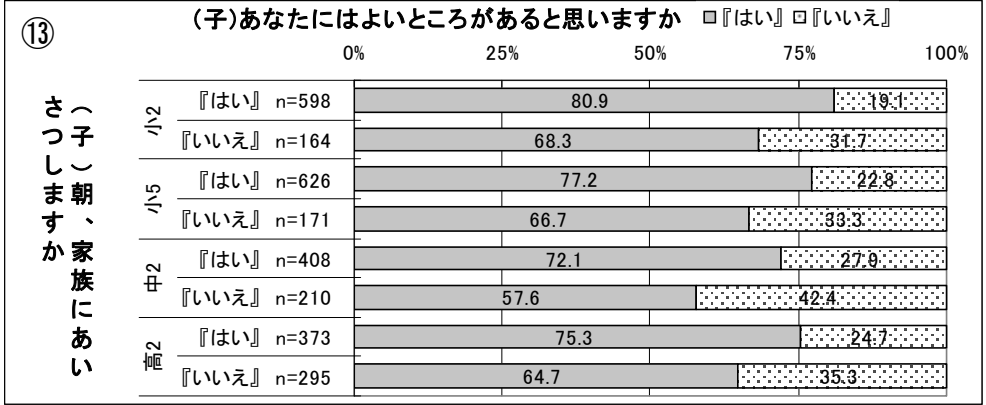
④ 関連の検定結果

	小2	小5	中2	高2
①	○	○	○	○
②	○	○	○	○
③	○	○	○	○
④	/	○	○	○
⑤	/	○	○	○

有意水準: P<.05
/ 質問なし
○: 有意
×: 非有意

- ① 「自分で起床する」と回答した子どもほど、「早く寝る」と回答する傾向があります。
- ② 「自分で起床する」と回答した子どもほど、「就寝時刻が一定している」と回答する傾向があります。
- ③ 「自分で起床する」と回答した子どもほど、「自分の部屋を掃除する」と回答する傾向があります。
- ④ 「自分で起床する」と回答した子どもほど、「時間を上手に使う心がけをする」と回答する傾向があります。
- ⑤ 「自分で起床する」と回答した子どもほど、「乱暴な言葉を使わない」と回答する傾向があります。

2-(3) 朝、家族にあいさつできる子どもほど、大人からしっかりとしつけや指導をされ、それを子どもが受け入れ、自分を価値ある存在と捉えています。



⑬ 関連の検定結果

	小2	小5	中2	高2
①	○	○	○	○
②	○	○	○	○
③	○	○	○	○
④	○	○	○	○
⑤	○	○	○	○
⑥	○	○	○	○
⑦	○	○	○	○
⑧	/	○	○	○
⑨	/	○	○	○
⑩	/	○	○	○
⑪	○	○	○	○
⑫	○	○	○	○
⑬	○	○	○	○

有意水準: P<.05
/ 質問なし
○: 有意 ×: 非有意

- 「朝、家族にあいさつする」と回答した子どもの保護者ほど、
 - ①「家族にあいさつさせる」 ②「返事をさせる」 ③「テストの点数を確認する」
 - ④「親に対する正しい言葉遣いを指導する」 ⑤「読書を勧める」
 - ⑥「子どもがどこで何をしているか把握している」
 - ⑦「子どもの教育にとって家庭の影響は大きい」と回答する傾向があります。
- 「朝、家族にあいさつする」と回答した子どもほど、⑧「保護者は私のことを考えてくれている」
- ⑨「保護者から注意されたときに納得する」 ⑩「大人がいなくても決まりを守る」と回答する傾向があります。
- 「朝、家族にあいさつする」と回答した子どもほど、⑪「授業が分かる」 ⑫「やればできる」
- ⑬「自分には良いところがある」と回答する傾向があります。

提言 3 テレビ・ゲーム・携帯電話、
ルールを決めて守れる子どもに育てましょう。

子どもは、情報機器を使用することで、右表のように、膨大な時間を費やしていることが分かりました。

一人、一日あたりの情報機器を使用視聴する平均時間

	携帯電話(所持者)	PC(使用者)	TV、VTR、DVD(全員)
小5児童	26分	53分	2時間47分
中2生徒	1時間50分	1時間28分	2時間46分
高2生徒	2時間31分	1時間22分	2時間28分

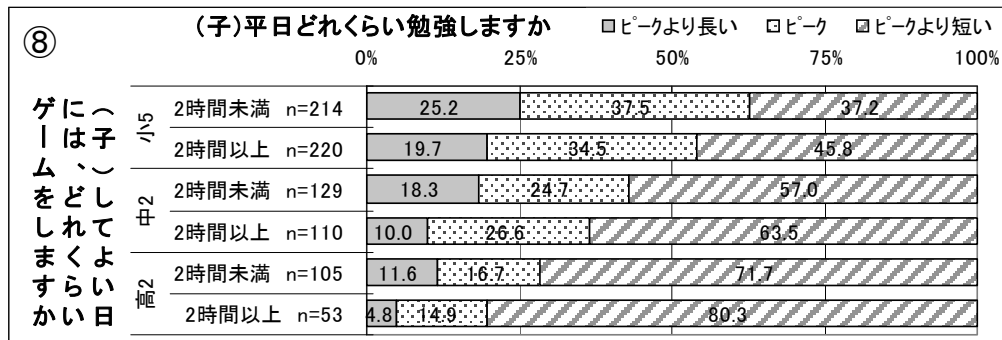
H20年度生活状況調査中間報告抜粋より

テレビ、ゲーム、携帯電話等の長時間の使用は、生活習慣や家庭学習等に悪影響を及ぼしています(3-(1))。子どもと話し合っ情報機器使用のルールを決め、子どもが自らルールを守れるようになることが望まれます。

特に、携帯電話を長時間使用する子どもほど、不安傾向がみられます(3-(2))。携帯電話の利用について、子どもに所持させるかどうかを含め、責任ある大人としての判断が求められます。

主体的に生活するためには、自分で時間を管理することが大切です(3-(3))。小学校高学年から、時間を上手に使う工夫をさせていきましょう(P35参照)。

**3-(1) テレビ、ゲーム、携帯電話等の長時間の使用は、
生活習慣、家庭学習、決まりを守る意識、友人関係に悪影響を及ぼします。**



⑧ 関連の検定結果

	小2	小5	中2	高2
①	/	○	○	×
②	/	○	○	○
③	/	○	○	○
④	/	○	○	○
⑤	/	○	○	×
⑥	/	○	○	○
⑦	/	×	○	○
⑧	/	○	○	○
⑨	/	○	○	○
⑩	/	×	○	○
⑪	/	×	○	○
⑫	/	×	○	○

有意水準: P<.05

/: 質問なし

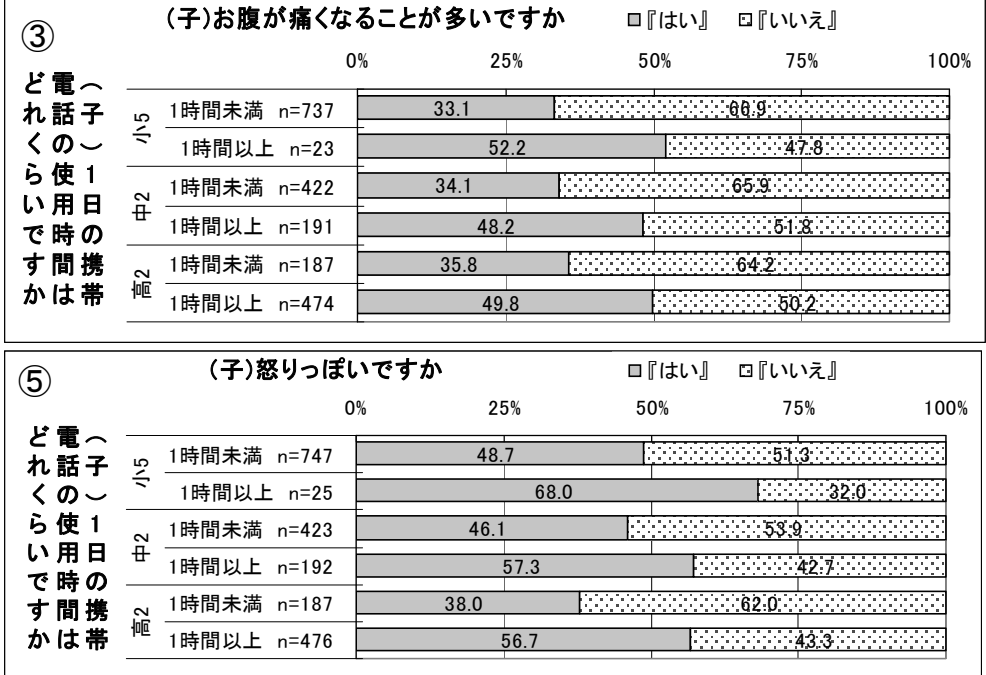
○: 有意, ×: 非有意

- 「テレビ、ビデオ、DVD等を見る時間が長い」と回答した子どもほど、
①「寝る時刻が遅い」 ②「家庭学習の時間が短い」 ③「勉強が意欲的ではない」
④「大人がいないとき決まりを守れない」と回答する傾向があります。

- 「ゲームをする時間が長い」と回答した子どもほど、⑤「寝る時刻が遅い」 ⑥「朝食を毎日食べない」
⑦「信頼できる友達がない」 ⑧「家庭学習の時間が短い」と回答する傾向があります。

- 「携帯電話の使用時間が長い」と回答した子どもほど、⑨「寝る時刻が遅い」 ⑩「朝食を毎日食べない」
⑪「家庭学習の時間が短い」 ⑫「勉強が意欲的ではない」と回答する傾向があります。

3-(2) 携帯電話やゲームを長時間使用する子どもほど、不安傾向がみられます。



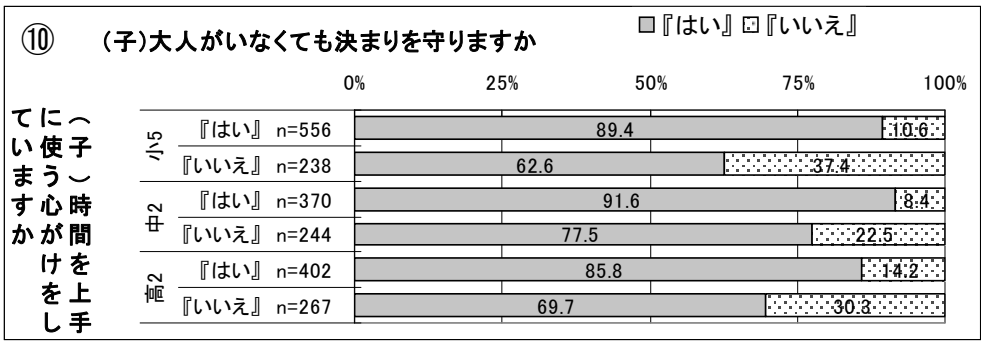
相関の検定結果

	小2	小5	中2	高2
①	/	○	○	○
②	/	×	○	○
③	/	○	○	○
④	/	○	○	○
⑤	/	○	○	○
⑥	/	○	○	○

有意水準: P<.05
 /: 質問なし
 ○: 有意
 ×: 非有意

- 「携帯電話の使用時間が長い」と回答した子どもほど、①「保護者から注意されたときに反抗する」②「乱暴な言葉を使う」③「お腹が痛くなることが多い」④「気持ち悪くなることが多い」⑤「怒りやすい」と回答する傾向があります。
- 「ゲームをする時間が長い」と回答した子どもほど、「カッとして物を壊すことが多い」と回答する傾向があります。

3-(3) 主体的に生活するためには、自分で時間を管理することが大切です。



相関の検定結果

	小2	小5	中2	高2
①	/	○	○	○
②	/	○	○	○
③	/	○	○	○
④	/	○	○	○
⑤	/	○	○	○
⑥	/	○	○	○
⑦	/	○	○	○
⑧	/	○	○	○
⑨	/	○	○	○
⑩	/	○	○	○

有意水準: P<.05
 /: 質問なし
 ○: 有意
 ×: 非有意

- 「時間を上手に使うよう心がける」と回答した子どもほど、①「やればできる」②「すっきり目覚める」③「自分の部屋を掃除をする」④「読書は大切である」⑤「信頼できる友達がいる」⑥「家族に注意や意見をされない」⑦「意欲的に勉強する」⑧「将来の夢がある」⑨「就きたい仕事がある」⑩「大人がいなくても決まりを守る」と回答する傾向があります。

提言 4 指導、賞賛、傾聴で、子どもの自尊感情を高めましょう。

子どもの自尊感情(自分を価値ある存在であると肯定的に捉える気持ち)を最も支えているのは、大人への信頼感であり(P5参照)、これを高めていくためには、大人による「指導」、「賞賛」、「傾聴」が、特に大切であることが分かりました(4-(1))。

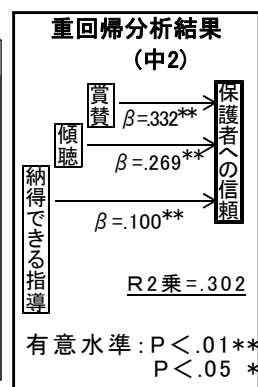
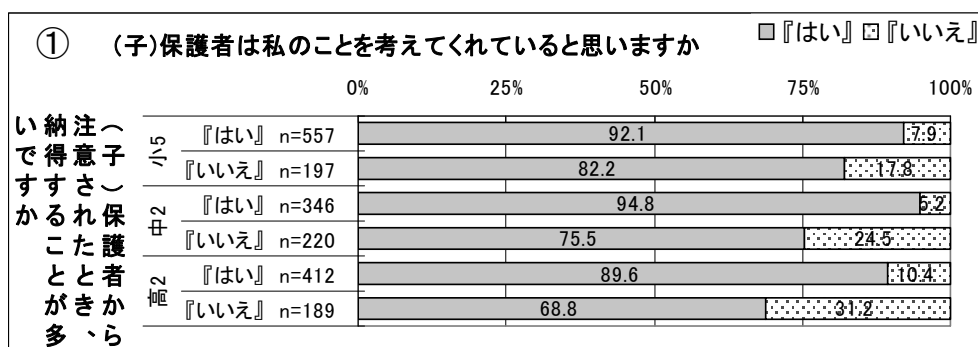
子どもの自尊感情をはぐくみ、高めるために、また、大人の働きかけを有効なものにするためには、子どもが大人を信頼していることが最も大切だと考えられます。

大人への信頼、大人からの賞賛によって、子どもは自信を深めます(4-(2))。たとえば、「保護者は私のことを考えてくれている」「保護者に褒められる」と回答した子どもほど、「自分には良いところがある」と回答しています。

大人への信頼、大人の傾聴、子どもの自信が、良好な友人関係を支えます(4-(3))。「保護者は私のことを考えてくれている」「意見が違っても保護者が傾聴する」「自分には良いところがある」と回答する子どもほど、「信頼できる友達がいる」と回答しています。

子どもの足りないところを指導すること、子どもの良いところを褒めること、意見が違っても子どもの話に耳を傾けること、これら三つのコミュニケーションを大切にして子どもに向き合い、大人、友人を信頼できる自尊感情の高い子どもを育てましょう。

4-(1) 納得できる指導をされている子ども、褒めてほしいことを褒められている子ども、意見が違っても話を聴いてもらっている子どもほど、大人を信頼しています。



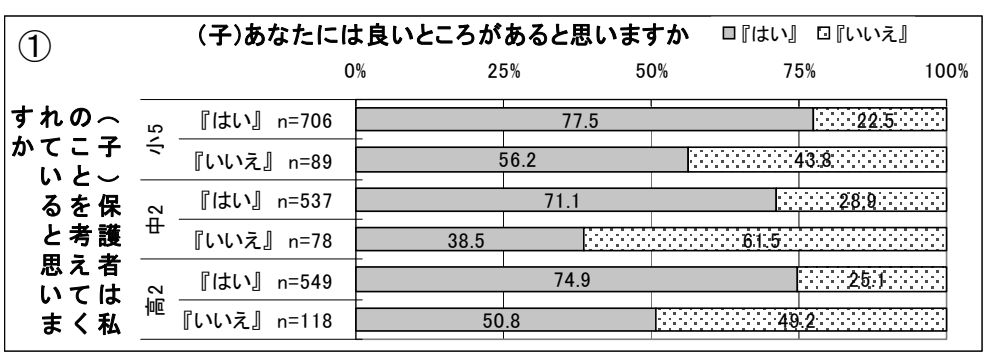
- ① 「保護者から注意されたときに納得する」と回答した子どもほど、「保護者は私のことを考えてくれている」と回答する傾向があります。
- ② 「保護者から注意されたときに反抗する」と回答した子どもほど、「保護者は私のことを考えてくれている」という回答は少ない傾向にあります。
- ③ 「褒めてほしいことを保護者に褒められる」と回答した子どもほど、「保護者は私のことを考えてくれている」と回答する傾向があります。
- ④ 「意見が違っても保護者が傾聴する」と回答した子どもほど、「保護者は私のことを考えてくれている」と回答する傾向があります。

相関の検定結果

	小2	小5	中2	高2
①	/	○	○	○
②	/	○	○	○
③	/	○	○	○
④	/	○	○	○

有意水準: $P < 0.05$
 / 質問なし
 ○: 有意
 ×: 非有意

4-(2) 大人を信頼できること、大人から褒められることで、
子どもは自信を深めます。



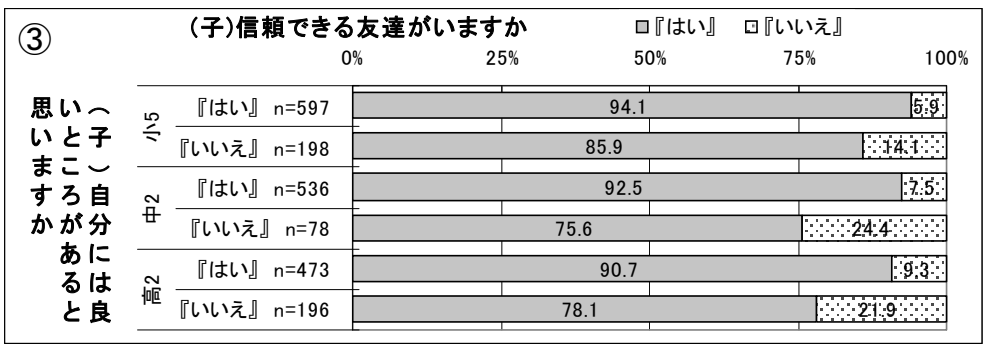
① 小2 小5 中2 高2

	小2	小5	中2	高2
①	/	○	○	○
②	/	○	○	○
③	/	○	○	○
④	/	○	○	○
⑤	/	○	○	○
⑥	/	○	○	○
⑦	/	○	○	○

有意水準: P<.05
/ 質問なし
○: 有意
×: 非有意

- ① 「保護者は私のことを考えてくれている」と回答した子どもほど、「自分には良いところがある」と回答する傾向があります。
- ② 「保護者は私のことを考えてくれている」と回答した子どもほど、「やればできる」と回答する傾向があります。
- ③ 「保護者は私のことを考えてくれている」と回答した子どもほど、「勉強に意欲的である」と回答する傾向があります。
- ④ 「保護者は私のことを考えてくれている」と回答した子どもほど、「大人がいなくても決まりを守る」と回答する傾向があります。
- ⑤ 「保護者に褒められる」と回答した子どもほど、「自分には良いところがある」と回答する傾向があります。
- ⑥ 「保護者に褒められる」と回答した子どもほど、「勉強に意欲的である」と回答する傾向があります。
- ⑦ 「保護者に褒められる」と回答した子どもほど、「大人がいなくても決まりを守る」と回答する傾向があります。

4-(3) 大人を信頼できること、大人に話を聴いてもらえること、自分に自信があることが、良好な友人関係を支えます。



③ 小2 小5 中2 高2

	小2	小5	中2	高2
①	/	○	○	○
②	/	○	○	○
③	/	○	○	○
④	/	○	○	○

有意水準: P<.05
/ 質問なし
○: 有意
×: 非有意

- ① 「保護者は私のことを考えてくれている」と回答した子どもほど、「信頼できる友達がいる」と回答する傾向があります。
- ② 「意見が違っても保護者が傾聴する」と回答した子どもほど、「信頼できる友達がいる」と回答する傾向があります。
- ③ 「自分には良いところがある」と回答した子どもほど、「信頼できる友達がいる」と回答する傾向があります。
- ④ 「やればできる」と回答した子どもほど、「信頼できる友達がいる」と回答する傾向があります。

提言 5 子どもからの信頼を得て、子どもの不安を軽減しましょう。

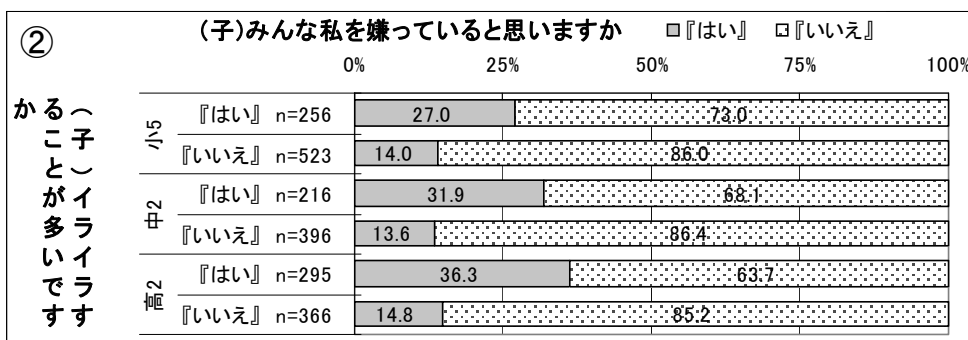
「怒りっぽい」「イライラが多い」、「人の目が気になる」「自分が悪いと思ってしまう」、「よく気持ち悪くなる」「お腹がよく痛くなる」等と回答した子どもは、「みんな私を嫌っている」「誰も私を大切にしてくれない」という不安を抱えている傾向にあることが明らかになりました(5-(1))。

これらの不安を軽減し、子どもの自尊感情を高めていくためには、子どもが信頼できる大人からの賞賛や傾聴、良好な友人関係が大切です(5-(3))。保護者は私のことを考えてくれていると思っている子どもほど、「誰も私を大切にしてくれない」とは思わない傾向にあり、保護者に褒められていると思っている子どもほど、「自分はやればできる」と思っている傾向があります。

子どもの問題行動や「荒れ」は、大人からの適切な指導、賞賛、傾聴を得られず、大人を信頼できない子どもが、学習をはじめとする様々な体験で自信を失い(5-(2))、同様の友人が集まる、というような状況から生まれるものと考えられます。

大人が子どもの不安を真剣に受けとめながら傾聴し、本気で指導、賞賛することで子どもからの信頼を得ることが、問題解決の出発点です。

5-(1) 「怒りっぽい」「人の目が気になる」「よく気持ち悪くなる」等と回答した子どもは、「みんな私を嫌っている」「誰も私を大切にしてくれない」という不安を抱えている傾向があります。



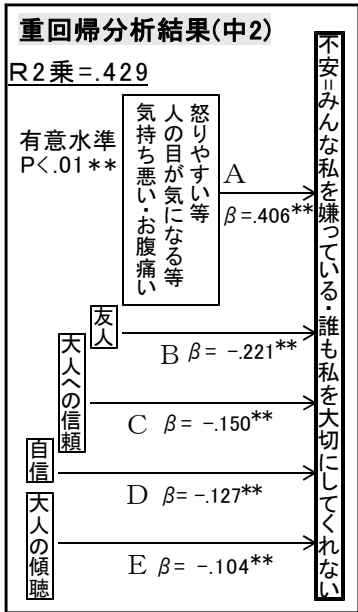
② 関連の検定結果

	小2	小5	中2	高2
①	○	○	○	○
②	○	○	○	○
③	○	○	○	○
④	○	○	○	○
⑤	○	○	○	○
⑥	○	○	○	○
⑦	○	○	○	○

有意水準:P<.05
 / 質問なし
 ○:有意 ×:非有意

- ① 「怒りっぽい」と回答した子どもほど、「みんな私を嫌っている」と回答する傾向があります。
- ② 「イライラする」と回答した子どもほど、「みんな私を嫌っている」と回答する傾向があります。
- ③ 「カッとして物を壊す」と回答した子どもほど、「誰も私を大切にしてくれない」と回答する傾向があります。
- ④ 「人の目が気になる」と回答した子どもほど、「みんな私を嫌っている」と回答する傾向があります。
- ⑤ 「自分が悪いと思ってしまう」と回答した子どもほど、「誰も私を大切にしてくれない」と回答する傾向があります。
- ⑥ 「よく気持ち悪くなる」と回答した子どもほど、「誰も私を大切にしてくれない」と回答する傾向があります。
- ⑦ 「お腹がよくいたくなる」と回答した子どもほど、「みんな私を嫌っている」と回答する傾向があります。

5-(2) 大人を信頼できないこと、大人が話を聴いてくれないこと、自信がないこと、信頼できる友人がいないことが、子どもの不安の主な原因です。



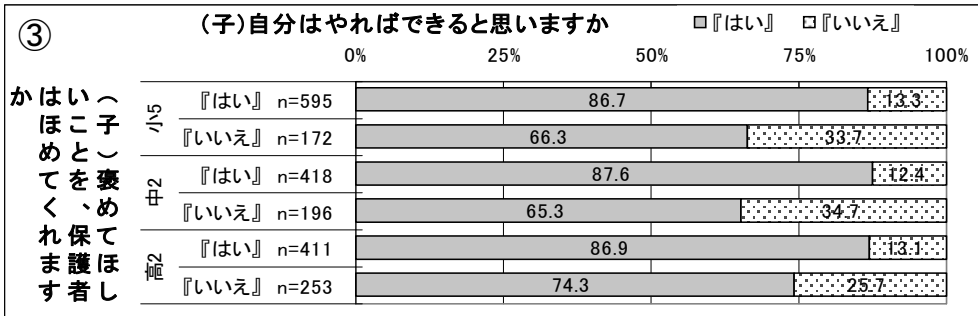
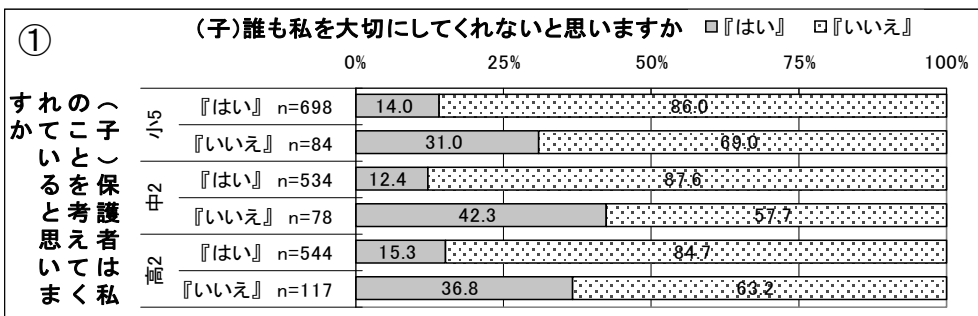
左の図は、中学2年生の「みんな私を嫌っている」「誰も私を大切にしてくれない」という「不安」の原因を、重回帰分析によって求めた結果を示したもので、AからEは不安の原因を表しています。

β の絶対値は原因としての影響の大きさの程度を示す値で、AからEは、影響の大きな順に上から並んでいます。

Aは、怒りやすかったり、人の目が気になったり、気持ち悪いと思ったりするきっかけになったできごと、または自分の行動や感情に対する不安であると考えられます。Bは友人がいないこと、Cは大人を信頼できないこと、Dは自分に自信がないこと、Eは大人が話を聴いてくれないことです。

AからEは、有意水準1%未満で有意であり、説明率を示すR2乗の値から、これら5つで、ここでの不安の42.9%を説明できることが分かります。

5-(3) 大人を信頼できること、大人に褒められること、大人に話を聴いてもらえること、信頼できる友人がいることが、子どもの不安を軽減します。



相関の検定結果

	小2	小5	中2	高2
①	/	-	-	-
②	/	○	○	○
③	/	○	○	○
④	/	-	-	-
⑤	/	-	-	-
⑥	/	○	○	○

有意水準:P<.05
/質問なし
○:有意、×:非有意
-:マイナスイ有意

- ① 「保護者は私のことを考えてくれている」と回答した子どもほど、「誰も私を大切にしてくれない」と回答する傾向は小さくなります。
- ② 「保護者は私のことを考えてくれる」と回答した子どもほど、「やればできる」と回答する傾向があります。
- ③ 「保護者が褒めてくれる」と回答した子どもほど、「やればできる」と回答する傾向があります。
- ④ 「保護者が傾聴する」と回答した子どもほど、「みんな私を嫌っている」と回答する傾向は小さくなります。
- ⑤ 「信頼できる友人がいる」と回答した子どもほど、「みんな私を嫌っている」と回答する傾向は小さくなります。
- ⑥ 「信頼できる友人がいる」と回答した子どもほど、「やればできる」と回答する傾向があります。

提言 6 子どもの学習について食卓で話題にしましょう。

学習に積極的に取り組めない子どもは、「みんな私を嫌っている」「誰も私を大切にしてくれない」という不安を抱えている傾向にあることが分かりました(6-(5))。

子どもは、最も長い時間を授業で過ごし、学習で多くの評価をされ、好成績を収めることを期待されています。学習は子どもにとって生活の中心であり、学習に積極的に取り組めないことは、その子にとって、大人が考える以上に深刻な問題です。

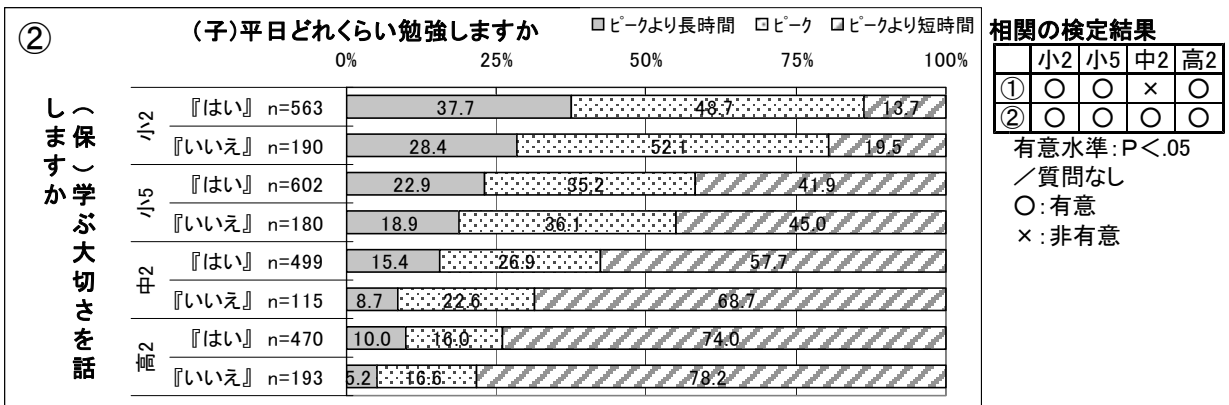
本調査の保護者の回答によれば、学習に積極的に取り組ませるために大切なことは、第一に、子どもに学習することの意味を話すことです。学ぶことの大切さを話す保護者の子どもほど、「長い時間学習する」と回答する傾向があります(6-(1))。

第二に、学校でのできごとを話題にすることです(6-(2))。「学校の手伝いに参加する」と回答した保護者の子どもほど、「意欲的に学習する」と回答する傾向があります。

第三に、子どもの学習に具体的な支援をすることです(6-(3))。テストの間違いをやり直させる保護者の子どもほど、「授業が分かる」と回答する傾向があります。しかし、「勉強しなさい」という一方的な指示は、効果が上がらないばかりか、逆効果になる場合があります(6-(3))。

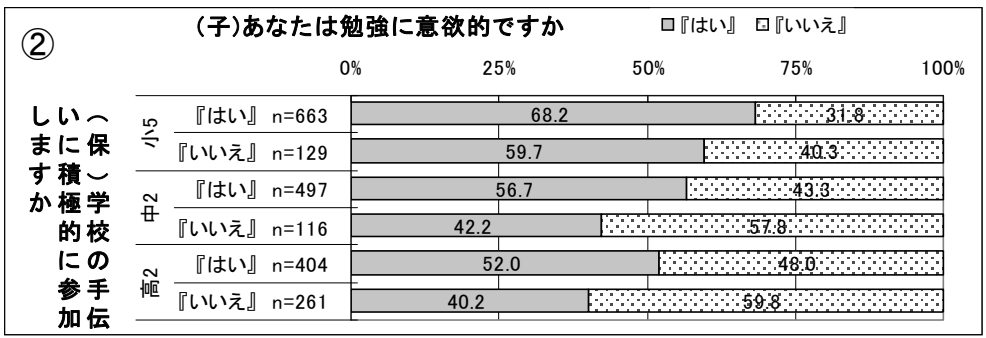
子どもに学ぶことの意味を話したり、子どもと学校でのできごとを話したり、学習に具体的な支援をしたり、読書を勧め(6-(4))たりするためには、大人と子どもとの和やかなコミュニケーションが必要です。子どもの学習について、家族が食卓で話題にできるような雰囲気づくりを心がけましょう。

6-(1) 大人が、学習することの意味を子どもに話す家庭では、
子どもが、学習に積極的に取り組む傾向があります。



- ① 「今の勉強は将来大切になることを話す」と回答した保護者の子どもほど、「長い時間学習する」と回答する傾向があります。
- ② 「学ぶことの大切さを話す」と回答した保護者の子どもほど、「長い時間学習する」と回答する傾向があります。

6 - (2) 学校のできごとを話題にする家庭では、
子どもが、学習に積極的に取り組む傾向があります。



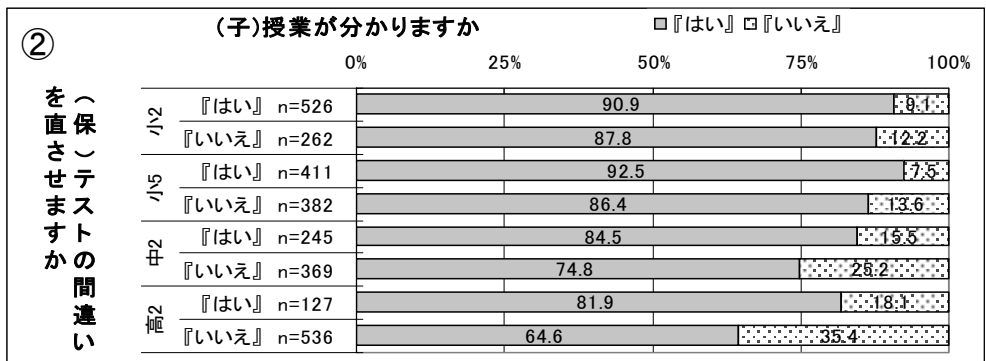
② ① ②

	小2	小5	中2	高2
①	○	○	○	○
②	/	○	○	○

有意水準:P<.05
/質問なし
○:有意、×:非有意

- ① 「授業を話題にする」と回答した保護者の子どもほど、「授業が分かる」と回答する傾向があります。
- ② 「学校の手伝いに参加する」と回答した保護者の子どもほど、「意欲的に学習する」と回答する傾向があります。

6 - (3) 大人が、学習について具体的に支援する家庭では、子どもが、学習に積極的に取り組む傾向があります。しかし、「勉強しなさい」という一方的な指示は、効果が上がらないばかりか、逆効果になっている場合があります。



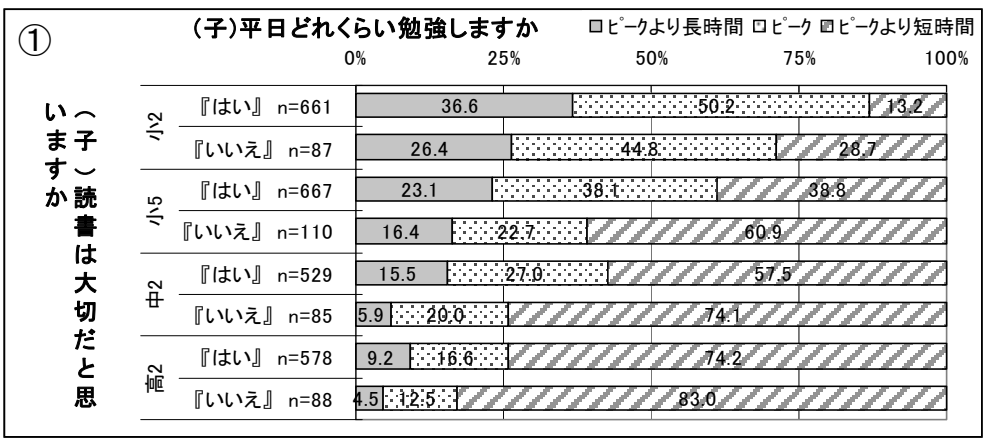
② ③ ④ ⑤

	小2	小5	中2	高2
①	×	○	○	○
②	×	○	○	○
③	○	○	○	○
④	×	×	-	×
⑤	/	-	×	×

有意水準:P<.05
/質問なし
○:有意
×:非有意
-:マイナスに有意

- ⑤ (子)勉強に意欲的ですか □『はい』 □『いいえ』
- ① 「テストの点数を確認する」と回答した保護者の子どもほど、「授業が分かる」と回答する傾向があります。
- ② 「テストで間違った問題をやり直させる」と回答した保護者の子どもほど、「授業が分かる」と回答する傾向があります。
- ③ 「家庭学習をする時間を指導する」と回答した保護者の子どもほど、「長い時間学習する」と回答する傾向があります。
- 「勉強しなさいと声をかけている」と回答した保護者の子どもほど、④「授業が分かる」⑤「勉強に意欲的である」と回答する、という傾向はありません。

6-(4) 読書は大切であると回答した子どもは、積極的に学習する傾向があります。



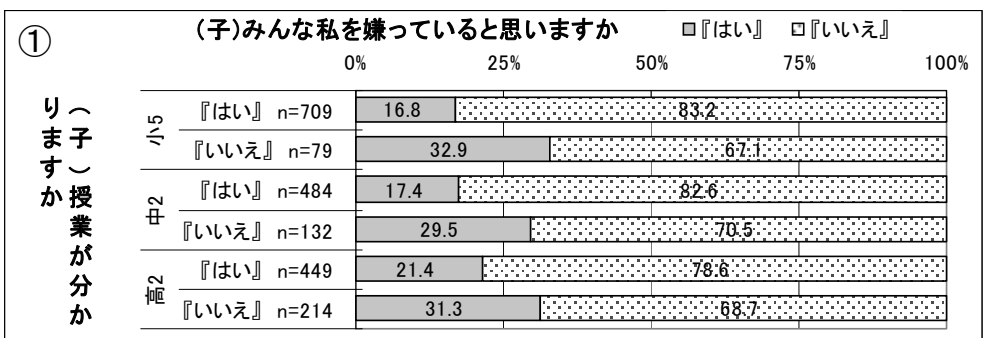
① 関連の検定結果

	小2	小5	中2	高2
①	○	○	○	○
②	○	○	○	○
③	/	○	○	○
④	/	○	○	○

有意水準: P<.05
/ 質問なし
○: 有意
×: 非有意

- ① 「読書は大切である」と回答した子どもほど、「長い時間学習する」と回答する傾向があります。
- ② 「読書は大切である」と回答した子どもほど、「授業が分かる」と回答する傾向があります。
- ③ 「読書は大切である」と回答した子どもほど、「今の勉強は将来大切になる」と回答する傾向があります。
- ④ 「読書は大切である」と回答した子どもほど、「勉強に意欲的である」と回答する傾向があります。

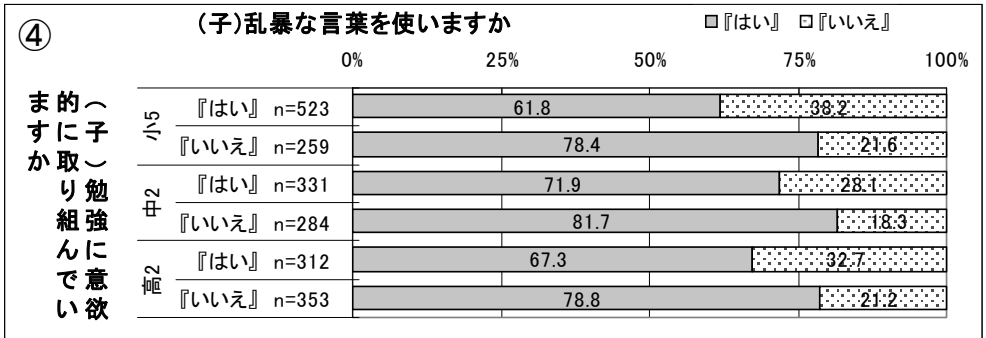
6-(5) 学習に積極的に取り組めない子どもは、不安を抱えている傾向、注意されたときに反抗する、乱暴な言葉を使うという傾向があります。



① 関連の検定結果

	小2	小5	中2	高2
①	/	○	○	○
②	/	○	○	○
③	/	-	-	-
④	/	○	○	○
⑤	/	○	○	○

有意水準: P<.05
/ 質問なし
○: 有意, ×: 非有意
-: マイナスに有意



① 「授業が分からない」と回答した子どもほど、「みんな私を嫌っている」と回答する傾向があります。

- ② 「勉強に意欲的でない」と回答した子どもほど、「みんな私を嫌っている」と回答する傾向があります。
- ③ 「今の勉強は将来大切になる」と回答した子どもほど、「誰も私を大切にしてくれない」と回答する傾向は小さくなります。
- ④ 「勉強に意欲的でない」と回答した子どもほど、「乱暴な言葉を使う」と回答する傾向があります。
- ⑤ 「授業が分からない」と回答した子どもほど、「保護者から注意をされたとき反抗する」と回答する傾向があります。

提言 7 将来を展望できる「大人」に育てましょう。

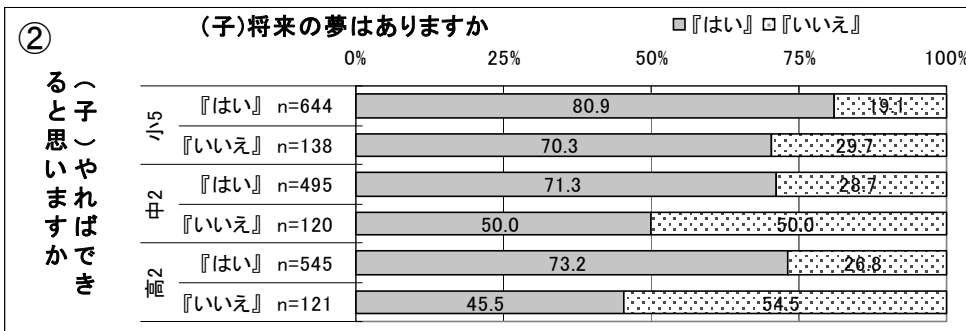
子どもが自分の将来を考える力は、学童期の自尊感情を基盤にして育ち、中学生で特徴として見えるようになります(P5、P31参照)。

大人への信頼、自信、夢中なこと、学習への意欲的な取り組みが、自分の将来を考える力を育てます(7-(1))。やればできると思っている子どもは、「将来の夢がある」と回答する傾向があります。

自分の将来を考えることで、学習意欲や時間を管理する力が高まります(7-(2))。就きたい仕事がある子どもは、「勉強に意欲的」と回答する傾向があります。

自分や社会の将来を展望できる「大人」を目指して、今やるべきことを夢中でやっつけていけるように子どもを育てることが、大人としての重要な役割であると考えられます。

7-(1) 大人への信頼、自信、夢中なこと、学習への意欲的な取り組みが、自分の将来を考える力を育てます。



相関の検定結果

	小2	小5	中2	高2
①	/	○	○	○
②	/	○	○	○
③	/	○	○	○
④	/	○	○	○
⑤	/	○	○	○

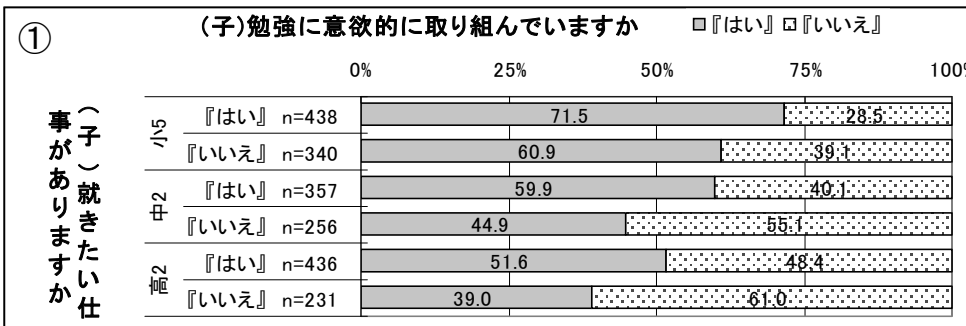
有意水準: P<.05

/ 質問なし

○: 有意 ×: 非有意

- ① 「保護者は私のことを考えてくれる」と回答した子どもほど、「将来の夢がある」と回答する傾向があります。
- ② 「自分はやればできる」と回答した子どもほど、「将来の夢がある」と回答する傾向があります。
- ③ 「自分には良いところがある」と回答した子どもほど、「就きたい仕事がある」と回答する傾向があります。
- ④ 「今夢中なことがある」と回答した子どもほど、「将来の夢がある」と回答する傾向があります。
- ⑤ 「勉強に意欲的である」と回答した子どもほど、「就きたい仕事がある」と回答する傾向があります。

7-(2) 自分の将来を考えることで、学習意欲、時間を管理する力が高まります。



相関の検定結果

	小2	小5	中2	高2
①	/	○	○	○
②	/	○	○	○

有意水準: P<.05

/ 質問なし

○: 有意

×: 非有意

- ① 「就きたい仕事がある」と回答した子どもほど、「勉強に意欲的である」と回答する傾向があります。
- ② 「将来の夢がある」と回答した子どもほど、「時間を上手に使う心がけをしている」と回答する傾向があります。